

衛研第2-45号
平成30年 2月 7日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。
なお、今週は下記の内容を含んでいます。

記

1. 今週の県内情報
2. インフルエンザ流行情報
3. 今週の全数把握対象疾患の報告数、累計
4. 今週の定点把握対象疾患の報告患者数、定点当たり報告数
5. 全国及び関東情報
6. Saitama Infectious Agents Surveillance Report
埼玉県病原微生物検出情報（月報）
7. 今週の流行状況

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成30年第5週（平成30年1月29日～平成30年2月4日）

今週の注目される疾患

図は次ページ以降に掲載

全数把握対象疾患では、一類、二類（結核を除く）、三類及び四類感染症の届出はなかった。五類感染症は、アメーバ赤痢2人、急性脳炎2人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人、侵襲性肺炎球菌感染症3人、梅毒3人、百日咳2人、風しん1人の届出があった。

定点把握対象疾患では、インフルエンザ(65.41 68.29：図 1-4)の定点当たり報告数は前週より増加し、大きな流行の最中にある。保健所別では、越谷市(82.69)、草加(82.26)、幸手(80.21)保健所の順に多く、東部地区で多い状況となっている。また、川越市(58.15 77.38)、朝霞(60.05 73.65)保健所では定点当たり報告数が前週より大きく増加した。第2～5週の4週間(1月8日～2月4日)に採取されたインフルエンザ検体からは、B型(山形系統)が102件(60.4%)、AH3型が35件(20.7%)、AH1pdm09型が32件(18.9%)検出され、B型(山形系統)の割合が増加した。基幹定点報告対象疾患であるインフルエンザ(入院)(50人 33人)の報告数は前週より減少したが、5-9歳の報告数は前週より増加した。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(2.96 3.68)の定点当たり報告数は、春日部(8.50 13.17)、川口(7.65 10.00)保健所管内で多い状況が続いている。

眼科定点報告対象疾患では、流行性角結膜炎25人の報告があった。他の基幹定点報告対象疾患では、感染性胃腸炎(ロタウイルス)1人の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし
二類感染症	報告なし(結核を除く)
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	
アメーバ赤痢	2人(病型 腸管アメーバ症 2人)
急性脳炎	2人(病原体 インフルエンザウイルスB 1人、 病原体不明 1人)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1人(血清群 G群)
侵襲性肺炎球菌感染症	3人
梅毒	3人(病型 早期顕症 期 2人、 無症状病原体保有者 1人)
百日咳	2人
風しん	1人(病型 臨床診断例)

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)で御覧になれます。

インフルエンザ流行情報 (第5週) 小児科定点・内科定点からの報告

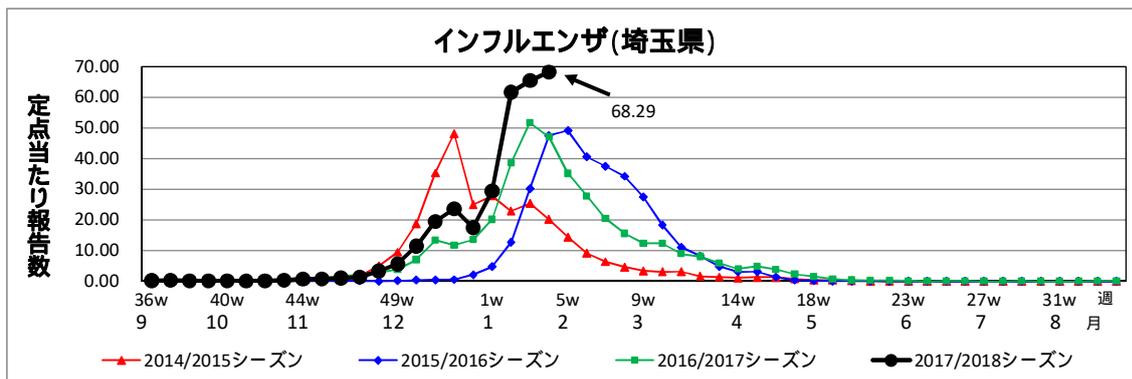


図1 定点当たり報告数の推移

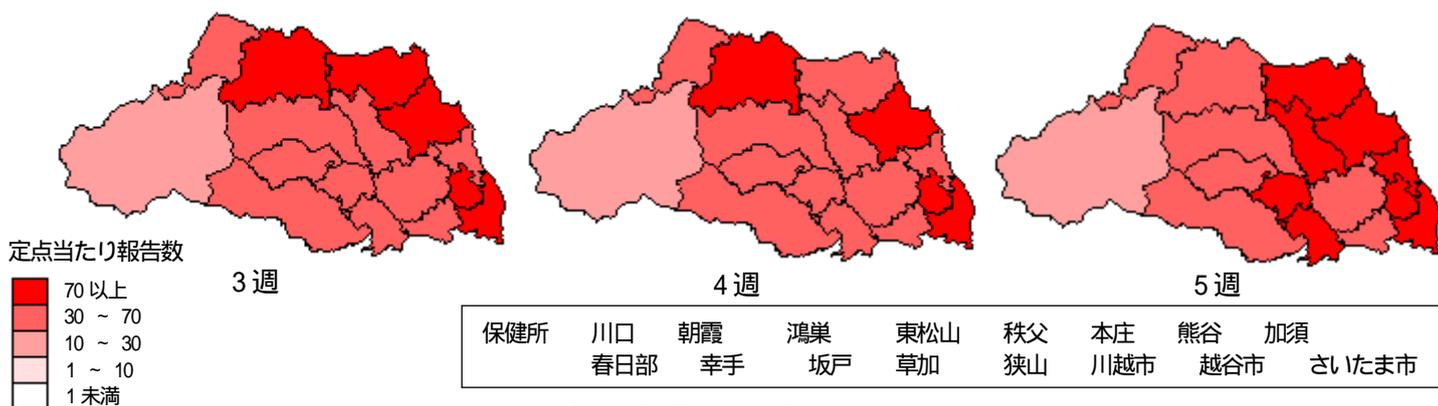


図2 流行の推移 (2018年3~5週)

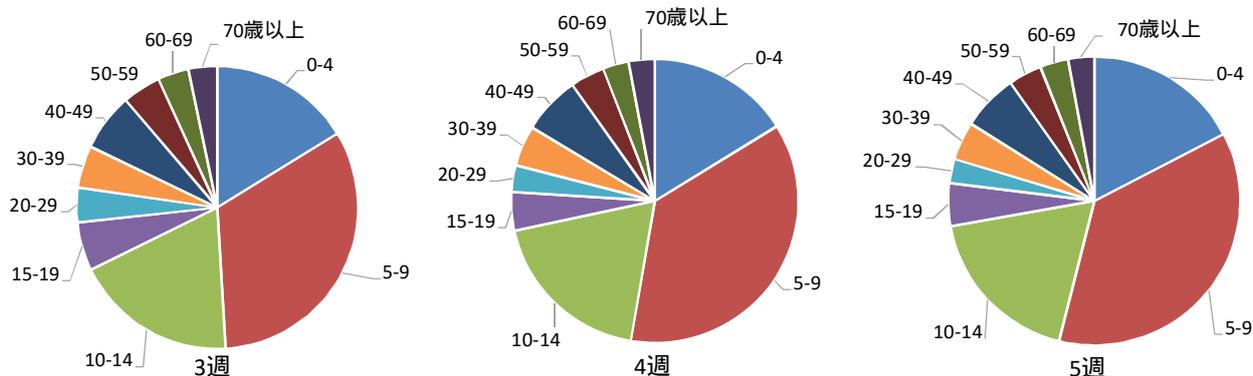
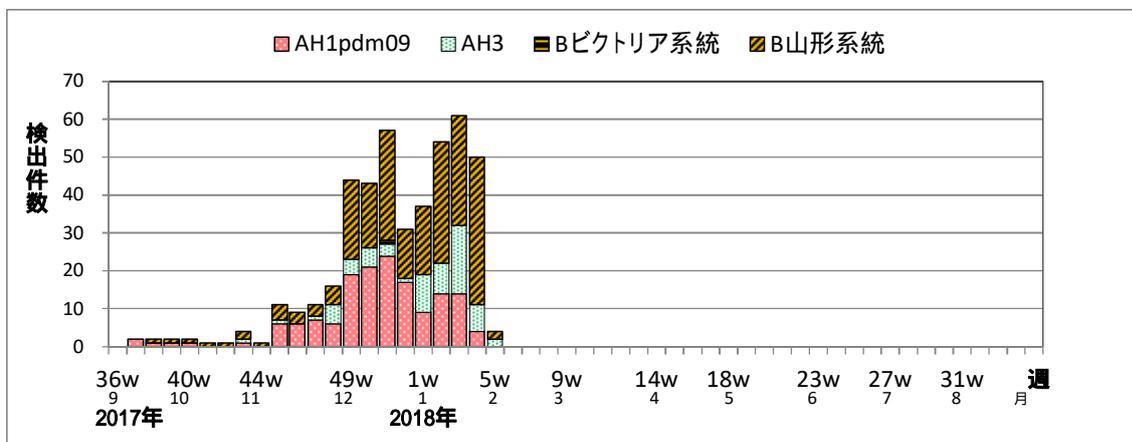


図3 各週における報告患者の年齢 (割合)



※ AH3とB山形系統の重複検出(2検体)を含む

図4 AH1pdm09、AH3、B(ビクトリア系統、山形系統)の週別検出数

詳細なウイルスの検出状況は<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/srv-flu.html>をご覧ください。

感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第5週)

(2018年1月6日 15:00集計)

	今週 届出	累 計	2017年 累計		今週 届出	累 計	2017年 累計
一類感染症							
エボラ出血熱				ベスト			
クリミア・コンゴ出血熱				マールブルグ病			
痘そう				ラッサ熱			
南米出血熱							
二類感染症							
急性灰白髄炎				中東呼吸器症候群(MERS)			
結核*	-	-	1280	鳥インフルエンザ(H5N1)			
ジフテリア				鳥インフルエンザ(H7N9)			
重症急性呼吸器症候群(SARS)							
三類感染症							
コレラ		1		腸チフス		1	3
細菌性赤痢			7	パラチフス			
腸管出血性大腸菌感染症		3	246				
四類感染症							
E型肝炎		1	19	東部ウマ脳炎			
ウエストナイル熱				鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)			
A型肝炎			12	ニパウイルス感染症			
エキノコックス症				日本紅斑熱			
黄熱				日本脳炎			
オウム病			1	ハンタウイルス肺症候群			
オムスク出血熱				Bウイルス病			
回帰熱				鼻疽			
キャサヌル森林病				ブルセラ症			1
Q熱				ベネズエラウマ脳炎			
狂犬病				ヘンドラウイルス感染症			
コクシジオイデス症				発しんチフス			
サル痘				ポツリヌス症			
ジカウイルス感染症				マラリア			1
重症熱性血小板減少症候群				野兔病			
腎症候性出血熱				ライム病			
西部ウマ脳炎				リッサウイルス感染症			
ダニ媒介脳炎				リフトバレー熱			
炭疽				類鼻疽			
チクングニア熱				レジオネラ症		5	99
つつが虫病		1	2	レプトスピラ症			2
デング熱			12	ロッキー山紅斑熱			
五類感染症							
アメーバ赤痢	2	7	53	水痘*			12
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)			11	先天性風しん症候群			
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		5	57	梅毒	3	16	232
急性脳炎	2	11	45	播種性クリプトコックス症		1	3
クリプトスポリジウム症				破傷風			2
クロイツフェルト・ヤコブ病			4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4	21	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			12
後天性免疫不全症候群		1	34	百日咳	2	10	-
ジアルジア症				風しん	1	1	6
侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	20	麻しん			5
侵襲性髄膜炎菌感染症			2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1	8
侵襲性肺炎球菌感染症	3	20	131				
指定感染症	該当疾患は無し						

水痘*：患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計				

累計は診断日で集計
*2017年累計は暫定値です。
*結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第5週 平成30年1月29日～平成30年2月4日)

	合計		-6ヵ月		12ヵ月		1歳		2歳		3歳		4歳		5歳		6歳		7歳		8歳		9歳		10-14		15-19		20-29		30-39		40-49		50-59		60-69		70-79		80～	
	17,550	34	118	452	610	675	1,154	1,297	1,391	1,430	1,211	1,080	3,220	837	476	756	1,104	654	546	333	172																					
インフルエンザ #1	17,550	34	118	452	610	675	1,154	1,297	1,391	1,430	1,211	1,080	3,220	837	476	756	1,104	654	546	333	172																					
合計	17,550	34	118	452	610	675	1,154	1,297	1,391	1,430	1,211	1,080	3,220	837	476	756	1,104	654	546	333	172																					
RSウイルス感染症	56	9	16	20	5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	39	-	2	4	6	1	8	7	6	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	600	-	1	12	32	40	64	85	86	58	53	47	84	12	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	921	5	35	82	81	64	86	73	55	50	37	37	144	44	128	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水痘	58	-	1	7	5	4	11	6	7	7	1	3	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	7	-	-	2	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	15	-	-	3	1	2	1	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	51	1	12	31	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	10	-	-	-	1	-	2	2	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	10	-	-	-	1	-	2	2	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	25	-	-	-	1	2	1	1	1	1	-	1	-	2	6	4	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25	-	-	-	1	2	1	1	1	1	-	1	-	2	6	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	33	-	3	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報

第3週 (1月15日～1月21日)

平成30年2月7日

<全国情報>

インフルエンザ: 定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鹿児島県(86.53)、宮崎県(84.97)、福岡県(83.99)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は2,370例と前週と比較して増加した。都道府県別では47都道府県から報告があり、年齢別では0歳(75例)、1～9歳(478例)、10代(86例)、20代(26例)、30代(35例)、40代(63例)、50代(105例)、60代(251例)、70代(416例)、80歳以上(835例)であった。

小児科定点報告疾患(主なもの): RSウイルス感染症の報告数は1,489例と2週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約72%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は富山県(1.17)、新潟県(0.95)、鹿児島県(0.75)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(8.16)、山形県(6.40)、福井県(5.18)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は石川県(0.66)、沖縄県(0.56)、大分県(0.47)である。手足口病の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は長崎県(1.48)、山形県(1.17)、佐賀県(1.17)、沖縄県(1.03)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は神奈川県(0.51)、栃木県(0.33)、山形県(0.23)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は岩手県(0.73)、鹿児島県(0.64)、島根県(0.52)である。

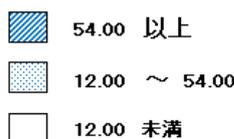
基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は秋田県(2.25)、青森県(1.00)、山形県(0.80)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は減少した。14都道府県から22例報告があり、年齢別では0歳(3例)、1～4歳(16例)、5～9歳(3例)であった。

Infectious Diseases Weekly Report Japan 2018年 第3週(1月15日～1月21日): 通巻第20巻 第3号 より

<関東情報>

インフルエンザの定点当たり報告数は、埼玉県(61.63)、千葉県(61.05)、神奈川県(54.49)からの報告が多い。

インフルエンザ



平成30年 03週

	全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数 256,833 定点当たり 51.93	81,785 53.98	6,075 50.63	3,139 41.30	4,254 48.34	15,840 61.63	13,065 61.05	20,612 49.67	18,800 54.49
RSウイルス感染症	報告数 1,489 定点当たり 0.47	267 0.28	39 0.52	12 0.25	15 0.28	70 0.43	28 0.21	70 0.27	33 0.15
咽頭結膜熱	報告数 959 定点当たり 0.30	223 0.23	16 0.21	9 0.19	27 0.50	33 0.20	29 0.21	67 0.26	42 0.20
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数 8,383 定点当たり 2.65	2,644 2.78	204 2.72	63 1.31	166 3.07	555 3.40	405 3.00	712 2.72	539 2.51
感染性胃腸炎	報告数 19,508 定点当たり 6.18	6,295 6.61	401 5.35	154 3.21	393 7.28	1,255 7.70	852 6.31	1,844 7.04	1,396 6.49
水痘	報告数 887 定点当たり 0.28	271 0.28	17 0.23	13 0.27	12 0.22	49 0.30	39 0.29	81 0.31	60 0.28
手足口病	報告数 741 定点当たり 0.23	97 0.10	5 0.07	10 0.21	6 0.11	9 0.06	17 0.13	22 0.08	28 0.13
伝染性紅斑	報告数 310 定点当たり 0.10	225 0.24	4 0.05	16 0.33	5 0.09	33 0.20	7 0.05	50 0.19	110 0.51
突発性発しん	報告数 1,102 定点当たり 0.35	361 0.38	8 0.11	19 0.40	21 0.39	66 0.40	52 0.39	122 0.47	73 0.34
ヘルパンギーナ	報告数 79 定点当たり 0.03	15 0.02	2 0.03	-	-	4 0.07	5 0.03	-	2 0.01
流行性耳下腺炎	報告数 520 定点当たり 0.16	113 0.12	8 0.11	2 0.04	22 0.41	15 0.09	19 0.14	14 0.05	33 0.15
急性出血性結膜炎	報告数 5 定点当たり 0.01	2 0.01	1 0.06	-	-	-	-	-	1 0.02
流行性角結膜炎	報告数 508 定点当たり 0.73	208 1.00	22 1.29	11 0.92	27 1.80	19 0.46	30 0.86	14 0.37	85 1.67
細菌性髄膜炎 #2	報告数 7 定点当たり 0.01	1 0.01	1 0.08	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数 13 定点当たり 0.03	5 0.06	-	-	-	2 0.20	1 0.11	2 0.08	-
マイコプラズマ肺炎	報告数 121 定点当たり 0.25	18 0.21	2 0.15	5 0.71	5 0.56	4 0.40	-	2 0.08	-
クラミジア肺炎 #3	報告数 5 定点当たり 0.01	1 0.01	-	-	-	-	1 0.11	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数 22 定点当たり 0.05	2 0.02	-	-	-	-	-	1 0.04	1 0.08

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)

埼玉県病原微生物検出情報（月報）2018年1月号

2018年2月7日発行

この情報は感染症法に基づく、感染症発生動向調査により、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所及び越谷市保健所の病原体検査情報をまとめたものです。

今月のコメント

インフルエンザ検体は前月より増加し、1月は215検体搬入され、B型が115件、AH1pdm09が41件、AH3が39件検出されました。そのうち2検体からはAH3型とB型が重複して検出されました。
国内発生例のコレラ菌が1件検出されました。

細菌検出状況

平成30年1月31日現在

病原体名		分離月	1月	備考（1月分）
三類	チフス菌		1	パキスタン:1
	コレラ菌		1	<i>V. cholerae</i> O1 エルトール小川(国内)
	腸管出血性大腸菌O157		1	H7(VT2):1
四類	レジオネラ菌			
五類	溶血性レンサ球菌（劇症型）		1	<i>Streptococcus pyogenes</i> (T4):1
	その他		2	・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE):2 (<i>Enterobacter cloacae</i> :2)

ウイルス検出状況

全数把握対象疾患

四類感染症

平成30年 1月31日現在(累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		1月	2月	3月	累計
E型肝炎	検体数	1			1
	E型肝炎	1			1
	検査中				

五類感染症

平成30年 1月31日現在(累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数			
		1月	2月	3月	累計
急性脳炎 (四類以外)	検体数	17			17
	ライノ	15			15
	検査中	1			1
風しん	検体数	10			10
	風しん	2			2
	検査中	2			2

風しんの検査中2検体は、麻疹ウイルス、風しんウイルスは陰性です。

定点把握対象疾患

季節性インフルエンザ

平成30年 1月31日現在(累計:1月~)

臨床診断名	検出月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	その他のウイルス
		検出月													
インフルエンザ	検体数	215												215	ヒトメタニューモ(1)
	インフルエンザ AH1pdm09	41												41	
	インフルエンザ AH3	39												39	
	インフルエンザ B	115												115	
	検査中	21												21	

五類定点把握対象疾患(季節性インフルエンザを除く)

平成30年 1月31日現在(累計:1月~)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
	ウイルス	20												20	
RSウイルス 感染症	検体数	6												6	コロナ(1)
	RS	5												5	
	検査中														
咽頭結膜熱	検体数	1												1	
	アデノ 1														
	アデノ 2														
	アデノ 3														
	アデノ 4														
	アデノ 5														
感染性胃腸炎	検体数	6												6	
	ノロ														
	サボ														
	アストロ														
	ロタ (A)														
	アデノ 40/41														
無菌性髄膜炎	検体数	7												7	
	検査中	7												7	

感染症発生動向調査 2018年

- [感染症の流行状況 2018年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2018年 第4週](#)

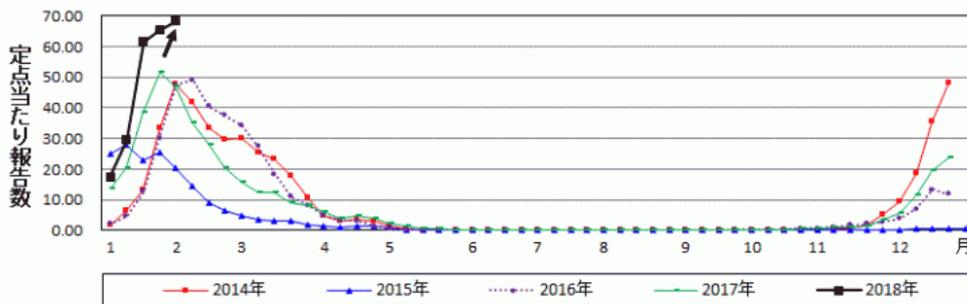
感染症の流行状況 2018年 第5週

2018年第5週（平成30年1月29日～2月4日）の要点 平成30年2月7日

インフルエンザの定点当たり報告数は、前週より増加し、大きな流行の最中にあります。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報の掲載ページへ](#)
- [麻疹及び風しんに関する情報の掲載ページへ](#)

インフルエンザ(埼玉県)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↑	★★★	伝染性紅斑(りんご病)	↓	★
RSウイルス感染症	→	★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱(プール熱)	↑	★	ヘルパンギーナ	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	→	★
感染性胃腸炎	→	★	急性出血性結膜炎	→	★
水痘(みずぼうそう)	→	★	流行性角結膜炎	→	★
手足口病	→	★			

*1.推移、流行状況は、県内全域の傾向です。*2.推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3.流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン